

2016年6月15日 発行

日本 VE 協会がフィリピン国家経済開発庁の食糧安全保障プロジェクトで VE 指導

1

フィリピン政府の国家経済開発庁は、農業生産量と生産性の向上、それによる食糧安全保障への貢献に向けて、同国の灌漑用水および排水開発を国家プロジェクトとして進めており、プロジェクト成果の最適化を図るべく、VE の実施を求めています。この度、日本 VE 協会は、同国プロジェクトの受注先である、CEST Incorporated の要請により、同社が実施する VE 活動へのアドバイスをするための専門家を派遣しました。

プロジェクト【メロ・マニラにおける食糧安全保障のための灌漑用水に関する VE/VA スタディ】：

NIA（国家灌漑公社）の VE プロジェクトのマクロレベルでの検討。（VE というより、VM）事前に NIA 全国各地の事務所拠点から収集した情報をもとに調査段階、フィジビリティスタディの実施から建設施工段階にいたるまでの開発において、NIA の弱点の洗い出し。さらに NIA の運用管理体制の分析も実施。5 月までに機能分析段階を終了し、プロジェクトチームの検討結果を受け、その後の創造段階で、特定した機能に対する解決策の候補となるアイデアをブレスト。

プロジェクトメンバーは、NEDA、NIA、CEST Inc.からチームリーダー、各部門の専門家（水資源、事業企画、財務、農業、環境アセスメント）15 名が集まり、今回の日程（2016 年 6 月 1 日～3 日）では、当会の参与である澤口学氏 CVS が技術アドバイザーとして VE 実施手順の次の段階の相談を受けました。

1. 機能分析

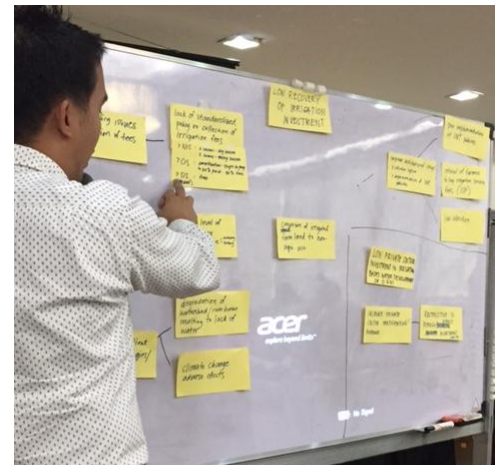
食糧安楽における NIA の役割の概要のヒヤリングとアドバイス。NIA の機能の弱点の特定、VE ステップや手順の方向性に関する相談とアドバイス（日本の VE 概要と進めた方についてレクチャーした後、本プロジェクトのケースを想定して指導）

2. 創造段階

Decision Tree 分析とアイデア出し、これらの選択肢の中から最適なアイデアを特定し、優先順位付けを行う際のアドバイス

国家プロジェクトである灌漑用水・排水システムに VE スタディの実施を求めているフィリピンは、土木系事業に VE 適用の需要が広がっていくことから、当会としては今後も必要に応じて専門家を派遣し、支援していく予定です。

（本件担当：事務局 上杉）



写真上：ワークショップの様子

写真下：ワークショップ関係者との交流

本件お問合せ先：公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会
 東京都世田谷区駒沢 1-4-15 真井ビル 6 階
 TEL：03-5430-4488 FAX：03-5430-4431
 URL：https://www.sjve.org E-MAIL：info@sjve.org